

双方向の連携を大切に

整形外科

TAKESHI
NISHIYAMA

写真は合成イメージです

今月の Prime Person!
プライムな人

院長

にしやま たけし
西山 武

楽しく知ろう！

プライム川柳
（整形外科）

名タツグ

素早い連携

整形外科

｜ すみやかな情報連携

私は、スタッフや患者様に対し、すみやかな情報連携を心がけています。

現在、整形外科は常勤医師2名（西山・文）体制で行っております。私と文先生で、お互いすみやかな情報連携ができるように心がけています。人と人との情報連携において、私が大切にしているのは、“双方向性”です。情報機器連携では不可能な部分であり、一方通行にならないように気をつけています。

”人間は、人間の基本的な資質や質問に対して、イメージする能力がある。それを介して創造力が生まれ、可能性を広げる。”

これはダライ・ラマのお言葉です。対話により、人間は創造力（クリエイティビティ）を生み出す力が備わっています。自分が何かを生み出す力となるものは、相手に対してイメージする能力です。つまり双方向性のある情報連携とは、人の可能性を広げる大事な行動なのです。



テクノロジーの発展により、基本的な質問はChatGPTが全て答えてくれる時代になりました。そのような状況下で私は、双方向性のある対話・連携は、より必要になると考えています。

「何故？」

それは相手に対してイメージする能力を鍛え、クリエイティブであり続けるために。でも、連携が早すぎて、ケガしないようにしないといけないですけどね！

(おしまい)

Message from manager

機械を通して人を見る

この数年機械化やシステムが大きく変わり病院もその波が来ております。非接触化により機械はより冷たいものになっている様に感じます。機械を扱う部署ですが、その先には患者さんがおられることを大切にしております。病院のコンセプトである「わが家のような安らぎと温もり」を感じて頂けますよう、機械と共に見守りをしております。



Yohei Kandatsu
臨床工学課 主任
神達 洋平



PRIME HOSPITAL TAMASHIMA

オンライン予約 開始!!



WEB・LINE から 簡単、診療予約!!

koneta
01

介護老人保健施設 ニューエルダーセンター 「老健ってどんなところ？」

要介護の方々が安心して暮らせるように医療ケアや介護サービスを提供する施設です。病院で入院治療を受けたがADLなどが低下して老健へ。在宅で認知症などが悪化し介護困難となり老健へ。在宅療養中の方が1-2か月の短期集中リハビリ合宿での利用、あるいは徐々に衰弱して終焉の場としての利用。胃ろう/経管栄養の方も受け入れています。

様々な専門職員、多職種協働によるチームリハビリテーションでサポートをしています。

施設長
鎌田 昌樹
Masaki Kamada



koneta
02

プライムホスピタル玉島「感染対策委員会より」 継続することの大切さ

新型コロナが流行を始めた当初から病院全体での取り組みとして、換気、手すり・キーボードの清掃を毎日定時に行ってきました。毎日行うことで習慣化され感染防止につながったことと、感染予防に対するスタッフの意識が高まったと思います。5月から5類に変更になったとはいえ、感染力が弱くなったわけではないため継続した取り組みをしていきます。(山本・塚原)



PRIME MINI COLUMN
プライムミニコラム

title.

ケガの治し方

転んで擦りむいたり、カッターや包丁で誤って切ったり、人生に一度くらいはケガしたことがありますよね。そんなとき、ケガの処置をどうしているでしょうか？ また、病院に行った方がよいかどうか悩むこともあるかもしれません。今回はケガの処置の一般的なおすすめをお話しします。

まずは、水道水やふる場のシャワーで洗いましょう。よく外来では、水道水でいいの？ と聞かれることがありますが、ほとんどのケガはまず問題ないことが多いです。むしろ洗わずに消毒だけちょこちょこするだけだと、傷口についたばい菌やケガをしたときについた汚れが落ちない場合が多いです。また、一度だけでは不十分で、基本的には毎日洗うことが大事です。十分に洗浄して清潔に保つことは非常に重要です。

次に、ケガをどう治すかですが、これは一概には言えません。そこで、病院に行った方がよいかどうか、という点でお話すると「止血ができない、深い傷や大きい傷になっている気がする、錆びた鉄や汚いものでケガをした、洗ってもきれいにできない、動物に深く噛まれた、傷あとが心配、家で様子を見ていたら悪くなっている気がする」などあれば、病院受診をおすすめします。

ほとんどの日常的なケガは洗って、絆創膏などを貼っていれば治ることも多いですが、時に治りにくいものもあるので、心配なら受診しましょう。



writer

形成外科 医師
内田 達也
Tatsuya Uchida

ケアプラン
訪問リハビリ
訪問看護
デイサービス
デイケア
ショートステイ
入居
医療

カフエ